

カラムナータイプりんごの育種の現状

農林総合研究センターりんご試験場 育種部

カラムナータイプとは、側枝や節間の長さが普通の栽培品種に比べて極めて短く、極細円筒形(棒状)の樹形に成長する特性を持った系統のことです。1960年代始めにカナダで「旭」の枝変わりとして発見されました(品種名：ウィジックマッキントッシュ)。その後、イギリスの研究所がこの品種を親にして精力的に品種改良に取り組み、そこで開発された品種の一部が現在、我が国でも販売されています。

カラムナータイプは、その成長特性から省力栽培に向く樹として注目されておりますが、最大の問題は「旭」の血を強く引くためか、食べておいしい品種がまだ開発されていないことです。そのため、今のところカラムナータイプの利用は授粉樹や観賞用(庭木)に限られています。

りんご試験場では、食味の良好なカラムナータイプ品種を育成するために、平成11年から平成13年にかけてカナダ、アメリカ、オーストラリアに出張し、各国で開発された食味が比較的良好なカラムナータイプと日本の優良品種との交配を行い、約1000本の実生を育成しました。これまでの調査では、全実生のうち28%がカラムナーの成長特性を示し、平成17年から結実し始めた22系統の中に、カラムナー性で食味がやや良いものも1系統見つかっています。今後、これらの実生の多くに果実が成るようになれば、有望系統も増えることが期待されます。



カラムナータイプ既存
品種の開花状況



カラムナータイプ既存
品種の結実状況



りんご試験場で育成中の
カラムナータイプ実生